

貴重な植物の保全について

目的

良好な自然環境に対する国民の関心が高まるにつれ、地域開発を行う事業者の考え方も、自然環境の保全を重視するようになってきています。自然環境の保全にあたっては、開発事業の内容や地域特性によって、その保全手法が変わることは当然のことです。事業者のニーズに応じ、かつ、効果的な環境保全対策を立案するためには、調査、設計、工事の相互連携が重要となってきます。ここでは、当部署が実施した貴重な植物の保全対策を紹介し、設計部署等との協働関係を探ることを目的とさせていただきます。

内容

貴重種とは、まず、「天然記念物」指定種や「種の保存法」指定種といった、法的に保護が必要な種が該当します。次に、法的な規制はないものの、生育数あるいは生息数が相対的に少ない種がこれに該当します。この代表例として、国や県のレッドデータブック掲載種が、通常、貴重種として取り扱われています。その他にも、貴重種として取り扱われる根拠は種々ありますが、何を貴重種とするかという判断基準には、あいまいな部分も残っています。

貴重な植物を保全するためには、その生育環境を把握することが重要です。生育環境とは、日当たり、土湿、土壌環境等が挙げられますが、一緒に生育している植物（混生種）の把握は、最も大事な要因の一つです。植物は、どんな場所にも生育することはできず、それぞれ、自分の好む場所があります。

つまり、貴重な植物と同じ環境を好む混生種は、貴重種の移植場所（類似環境）を探すときや、移植後の環境をチェックする際に、重要な指標となります。

技術ポイント（事例紹介）

事業者のニーズ、設計段階の制限、工事段階の制限を踏まえ、実現可能かつ効果的（少しの配慮で大きな保全効果）な保全対策を立案することが、事業者の信用を得ることにつながります。そのためには、より一層、設計部署との協働作業が重要になっていくものと考えます。

（1）ミズニラの保全事例

ミズニラは、雑草の少ない湿田に生育する貴重種です。

調整池の拡幅に伴いミズニラの生育地が消失することになったため、ため池の池縁に移植を行いました。移植先が限定されていたため、移植先の環境整備を人力で安価に行い、できる限り、ミズニラの好む環境を創出しました。

この保全事例は、工事施工段階に実施しています。これは、設計が煮詰まった段階等でも、その制限下で、最適な保全対策を立案することができた事例です。



環境整備したミズニラ移植地

(2) ミズワラビの保全事例

ミズワラビは、収穫後の水田で発芽する貴重種です。

下水処理場建設に伴い、ミズワラビの生育地が消失することになったため、ミズワラビ移植地を創出し、移植しました。工事の進捗状況に併せて、仮移植や追加移植を行うとともに、移植先の水管理や除草作業を実施し、ミズワラビの好む環境を創出し、維持しました。

この保全事例は、軽視されがちな維持管理の重要性を紹介するものです。維持管理は、工事中や工事後に実施するため、設計段階からの検討・提案が重要といえます。



ミズワラビの移植作業

(3) ミゾコウジュの保全事例

ミゾコウジュは、日当たりの良い湿った裸地的環境に生育する貴重種です。

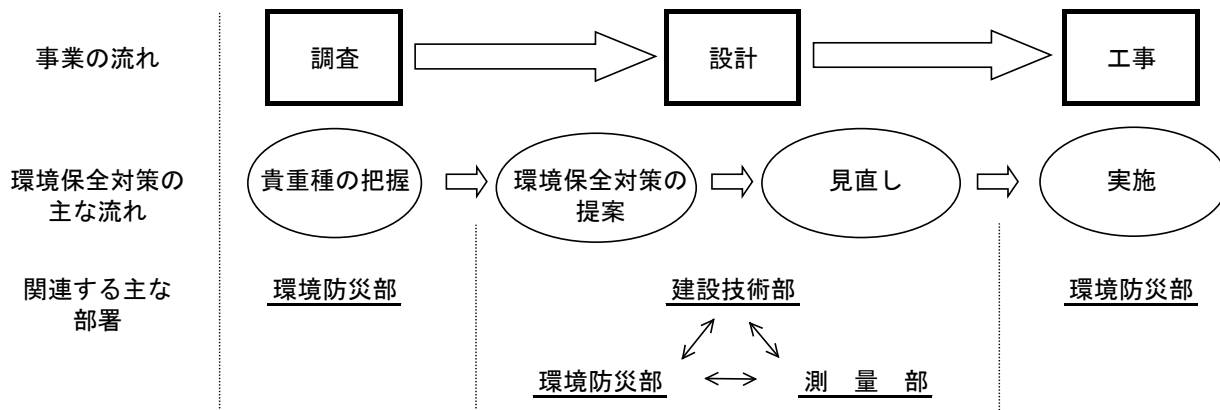
下水処理場建設に伴い、ミゾコウジュの生育地が消失することとなったため、調整池法面にミゾコウジュ移植地を創出し、移植しました。移植場所は、階段状にして土湿環境に変化をつけ、環境が悪化しても一度に全滅しないよう、生育環境の多様化を図りました。

この保全事例は、環境保全対策の提案内容が詳細設計及び工事に反映されています。半恒久的な環境が整備されており、調査と設計の部署がうまく連携した事例と言えます。



環境整備したミゾコウジュ移植地

事業の流れ



当社実績

- H18～H21 「宮川用水第二期地区 斎宮調整池環境影響評価事後調査その1業務」 東海農政局
- H15～H23 「宮川流域下水道 環境影響事後調査業務委託」 三重県
- H17～H21 「日光川下流流域下水道事業 環境保全調査業務委託」 愛知県
- H15 「水辺環境整備工事に伴う実施設計業務委託」 草加市

玉野総合コンサルタント株式会社

お問い合わせ先： 事業企画部 (TEL. 052-979-3960 / FAX. 052-979-3970)